

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第190号

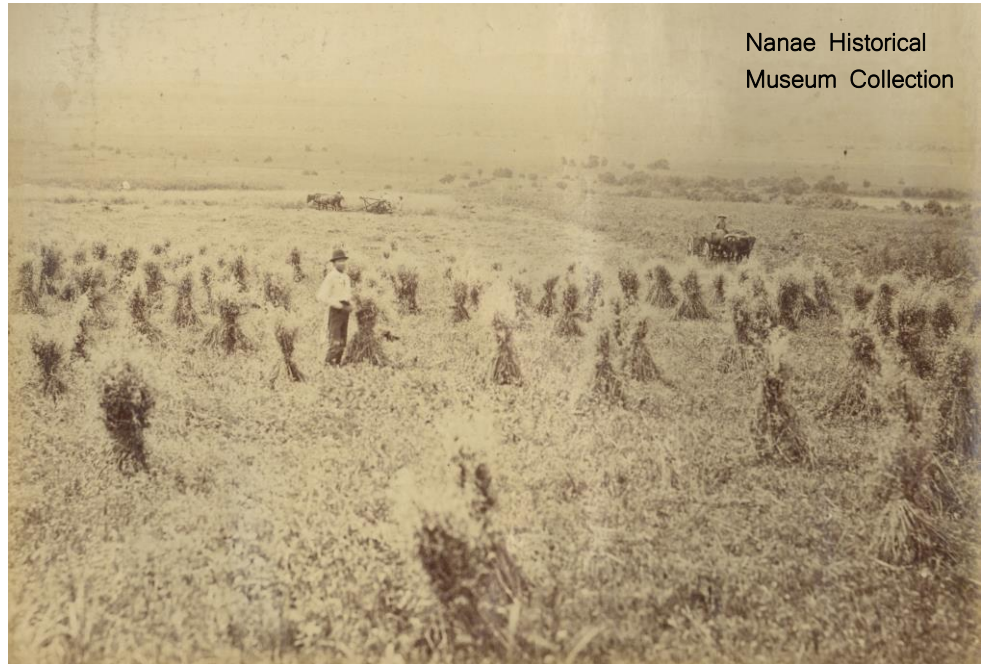
ななえ古写真物語 VOL.190

刈取り風景

七重官園写真帖より

明治10年頃

鳴川地区か？



これまで何度も取り上げている七重官園写真帖の中から、今回は刈取りの様子を写した一枚を紹介をしたい。

広がる畑に無数に建てられた藁束のようなもの。残念ながら写真が不鮮明で作物の同定が難しいのだが、豆類にしては、莢らしきものが見当たらず、稲にしては稲穂と思われる姿が見受けられない。よって、束ねられた作物はおそらく燕麦ではないかと考えている。冷涼な気候を好む品種で、日本では明治期に導入され、以降昭和初期にかけて北海道全般に栽培が広がった。食用もわずかにあったが、主に馬の飼料として用いられた。別名「オーツ麦」の方が現代人には、馴染みがあるかもしれない。オートミールの原料である。

七重官園でも燕麦の栽培が行われていたことは、開拓使の事業報告書にも明記されているし、同じ七重官園写真帖の中に、スラシミシンという農器械を使って、燕麦を脱穀してる様子の写真も残っている。そこには、上の写真と同じく束ねられた燕麦が並べられ、脱穀後には茎のみが残った燕麦が山となってに積まれている様子がうかがえた。収穫工程を記録する性格を帯びている、同一写真帖に収穫と脱穀があっても不自然ではないと思う。よって、この畑で収穫されているのが燕麦である可能性が高いと考えている。

官園写真帖全般に言えることだが、農作業におおよそ不向きと思われる帽子、シャツといった装いで撮影されることが多い。上の写真の中央で斜に構えている男性然りだ。記録写真のため良い恰好をしているのだろう、どこかモダンでありながら、牧歌的な雰囲気ではある。

さて、この写真には大型農器具を使用している様子が2か所写っている。中央奥に横向きに写っている2頭引きの馬が、リーパーと呼ばれる畜力麦刈り機（自動掻落し式）と考えられる。刃のついた器械を牛馬で牽くことで草を刈取り、前方に取り付けられた羽板のようなもので攪拌する、現代でいうところのコンバインである。当時30人の農夫の働きに匹敵するといわれた位なので、大幅な作業効率の向上がみられた農器具だったと想像する。

ちなみに、中央右側に写る2頭引きの牛に牽かせているものも、リーパーと思われる。ピントがあっていないため断定ではないが、左側面に立体的に見える器具は、収納された草を攪拌するものと思われ、草刈り本体は確認できないが、器具を付け変えることで刈取りと攪拌（もしくは集める）の両方を行うことが出来たのだろうと想像している。

明治初期のななえでも栽培されていた燕麦が、その後道具の普及とともに日本へ広がっていったかと思うと感慨深い一枚である。

6日 熊彫のはなし

夜の博物館最終夜は、『熊彫のはなし』。八雲町教育委員会の大谷学芸員に、全国的にも注目を浴びている八雲の木彫り熊が、どのように発展していったかを、歴史的背景も加え、解説して頂きました。北海道土産として知られる木彫り熊は、地域ごとに彫り方も異なり、フォルムもさまざま。その中でも八雲は、徳川義親が旅行途中に寄ったスイスで農民が作った木彫り熊を見たことが始まりとか。ペザントアートとしての木彫り熊、とっても奥が深く、今後の研究にも注目です。



13日 七飯中学校さんの見学

七飯中学校の1年生が地域を学ぶ学習の一環として、来館してくれました。パソコンを携え、学芸員の解説を聞きながら忙しく文字を打つ様子は宛らビジネスマンのようでした。町の産業の歴史や自然資料等からどんなことに興味をもったのでしょうか。七飯中学校のすぐ近くに位置する当館ですが、中学生が訪れることは稀です。こういった学習が新たな学びの機会となれば幸いです。



23日 ジュニア探検クラブ

芸術の秋、学びの秋。今回のプログラムは、アートと歴史に触れる時間です。道立函館美術館では普段入れないバックヤードを見せて頂き、開催中の展示では、絵画や彫刻、書など子どもたちは自由に作品を感じて楽しんでいました。五稜郭タワーと箱館奉行所は、観光客に混じり、施設が作られた経緯や箱館戦争の裏話などを聞き、撫でると頭が良くなると言われる武田斐三郎の頭彫碑を一生懸命撫でている子どもたちがとても健気に映った時間でした。



1 水

2 木

3 金 文化の日

4 土

5 日

6 月

7 火

8 水

9 木

10 金

11 土

12 日

13 月

14 火

15 水

16 木

17 金

18 土

19 日

20 月 ピチャリ第191号発行

21 火

22 水

23 木 勤労感謝の日

24 金

25 土 ジュニア探検クラブ

26 日

27 月

28 火

29 水

30 木

※11月の休館日はありません

館の歴史を知るギンプナ

タマゴから育てて10年になるギンプナ。歴史館の変遷を見つけてくれる大切な一員です。



編集後記 ~tawagoto~

毎日の通勤で見ていた景色から空がぽっかりと姿を現した。未だにその景色に慣れないでいる。白っぽい木肌と風に揺れる葉の様子は緑の風がたゆたうようで好きだった。切り株のすぐ近くから外来種であるハリエンジュが伸びている。置かれた状況下でまた違う植物が育つ。自然はたくましく、強い。変わらずあると思っていた景色は、いつか姿を変えることは逃れられないのかも知れない。今は心の中に立つさざ波を静かに受け止めている。

ピチャリ ~ピチャリ~

第190号

令和5年10月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp